

1 鳥井町の概要

鳥井町は、面積 5.17 km²、人口 1,149 人、世帯数 478 世帯、自治会数は 7 自治会、65 歳以上が約 40%を占めている。

地形は日本海に面し、海と山に囲まれ 1.5 km の砂浜があり、町全体としては平坦部が多い地域である。町内には、鳥井小学校、鳥井保育園そして 2 つの老人ホームがある。

比較的、小さな町で平成 30 年 8 月 19 日には山陰道に通じる海岸線道路約 2 km に県道が開通したことにより、交通の便が良くなった。



(鳥井町の全景)

2 事業の趣旨

- ① 安心安全な町づくりに主体的に関わろうとする人
- ② 行政主導ではなく住民主導で進めようとする意識を持った人
- ③ 他の団体や保護者世代(次世代)との交流を広めていこうとする人の育成をねらいとし、平成 29 年度より、自主防災会の設立を通して町民の幅広い参加、町内の団体や様々な機関との連携、組織化よってもたされる新たな「絆」づくりの事業を行った。

3 具体的な取組

平成 29 年度は、自主防災会を立ち上げるための自主防災組織設立準備会を結成し、準備会メンバーで自主防災に係る研修会（講師：防災・危機管理アドバイザー）や体験型研修会に参加した。

平成 30 年 6 月 15 日に自主防災組織設立準備会より推薦のあったメンバーで自主防災会を設立した。

(1) 自主防災会設立総会

- ア 自主防災会規約・組織体制
- イ 役員の選出
- ウ メンバー構成
- エ 今後の活動計画

(2) 第 1 回 自主防災役員会

大田市内において一早く自主防災活動の取組を行い、成果をあげている大田市三瓶町志学自主防災会会長を講師に学びの場を設定した。

- ア 組織の作り方
- イ 緊急連絡網の作成
- ウ 活動の取組
- エ 防災資材の必要性
- オ 自主避難計画の策定

自主防災活動の計画を進める中で、参考になった。



(会議の様子)

(3) 第2回 自主防災役員会

講師：大田市役所 危機管理課

講演：「自然災害についての備え」

ア 島根県西部地震の被害状況

イ 大田市発行の防災ハザードマップ
の見方

自治会別に3グループに分かれ、グループワークで災害時における問題点の抽出（危険箇所、避難経路、避難誘導、独居老人の世帯、防災上気づいたこと）を行い、今後作成する独自のハザードマップの作成に使用することとなった。



(グループワークの様子)

(4) いわくに消防防災センター 体験型研修を実施 (30名が参加)



(消火訓練の様子)



(煙体験の様子)



(震度7の地震体験)

(5) 避難所運営訓練・炊き出し訓練

HUG (シミュレーション型訓練) と町民が参加する非常食づくりを行った。



(HUGの様子)



(非常食づくりの様子)

4 評価と成果

- (1) 継続事業で自主防災組織を中心とした安心・安全なまちづくり、地域住民とのつながりを大切にしようとする意識の醸成を図ることができた。
- (2) 防災に関する次世代リーダーの育成につながった。
- (3) 自主防災会や各種団体と地域住民との連携を進めることができた。

5 今後の課題と見通し

「災害はいずれ必ず来る」ということを念頭に、自主防災の取組を開始し、平成30年4月9日の島根県西部地震で防災に対する意識はさらに高まった。

今後は、自主的に訓練に取り組むような住民のさらなる主体性を育てていく必要があると考えている。また、鳥井町自主防災会の活動や取組を継続して行っていくことが、持続可能なまちづくりを進めるうえで大切な基盤になってくると考えている。

(文責：鳥井まちづくりセンター 宅和 徹)